

論文の内容の要旨

論文題目 海外での医療経験が医療従事者のキャリア形成に与える影響

氏名 林 幹雄

医療機関をはじめとする組織での人材育成にはさまざまな手法があり、病院という組織においては、院内での研修を活用した人材育成の手法と院外での研修を活用した人材育成の手法がある。また、院内での研修を活用した人材育成には、主に就業時間内に行われる On the job training と就業時間外に行われる Off the job training があり、多様な職種が共同する病院という組織において、いずれも有用な人材育成の手法である。その一方で、院外での研修を活用した人材育成は、普段の職場と異なる医療関係者らとの共同作業を通じて、変化の創出や越境を行う発達の挑戦である。近年、上述したような境界を越えて働く経験が、人材の成長につながるものが明らかになってきており、院外での研修が人材育成という観点において、医療従事者のキャリア形成にどのような影響を与えるかということが注目されている。本研究では、医療従事者の海外における医療経験を病院外での研修を活用した人材育成の手法の一つと捉え、質的研究の手法を用い、同様の経験が医療従事者のキャリア形成に与える影響を探索した。また、医療従事者の海外における医療経験によって生じる学びのプロセスについて、同様の手法を用い、経験学習あるいはプロフェッショナル・アイデンティティ形成という観点からも探索を行った。

序文では、組織における人材育成の観点から、海外での医療支援事業への参加あるいは研修によって生じる学びのプロセスおよびキャリア形成に与える影響について、既知の研究知見を整理した。また、海外での医療経験をはじめとする越境経験が学習者に与える影響およびその学術的な背景について注目を行い、これらについても既知の研究知見を整理した。

研究1では、「海外での短期医療経験は医療従事者のリーダーシップコンピテンシーにどのような影響を与えるか」というテーマについて、質的研究を実施した知見の詳細を記述した。グローバル化が進む今日において、先進国で働く医療従事者が他国で医療チームの一員となり、医療実践あるいは教育支援を行う機会が増えつつある。その一方で、同様の経験が医療従事者のリーダーシップコンピテンシーにどのような影響を与えるのかについては明らかになっていない。そのため、経験学習の観点から医療従事者の海外における医療経験とリーダーシップコンピテンシーの関係性について質的記述的研究を遂行し、その知見をまとめた。質的データの収集は、直接対面式の半構造化インタビューにより行い、国際医療協力事業に参加した日本人の医療従事者を対象に、2017年7月から2018年3月の期間において研究を実施した。また、収集したデータについては、社会構成主義の

視点から解析および解釈を行った。本研究には、20名の医療従事者（看護師5名、歯科医師5名、医師10名：平均医療経験年数15.3年）が参加した。上記データ解析の結果、リーダーシップコンピテンシーと関連する58のテーマを抽出し、上記の内、23のテーマについては国際医療協力事業への参加後に関連するテーマであった。本研究者は、上記58のテーマを「リーダーシップコンセプト」、「チームビルディング」、「方針決定」、「コミュニケーション」、「ビジネススキル」、「共同作業」、「セルフディベロップメント」という7項目に分類を行った。また、データ解析により抽出したテーマについて、コンピテンシー毎の関係性や職種間の違いについても分析を実施した。その結果、看護師は国際医療協力事業への参加後に自身の患者に対する共感対応について振り返ることに対し、歯科医師は自身のビジネススキルを振り返り、医師は自身のリーダーシップコンセプトやチームビルディングを振り返るという特徴が明らかとなった。本研究により、海外における短期医療経験が医療従事者のリーダーシップコンピテンシーに与える影響が明らかとなり、将来、他国において医療実践を考慮する医療従事者の学習効果を検討する上で、有用な情報を提供すると考えた。

研究2では、「医学生の海外における選択実習の経験は医師のキャリア形成過程にどのような影響を与えるか」というテーマについて、質的研究を実施した知見の詳細を記述した。医学生の海外における選択実習の経験が、長期的な医師としてのキャリア形成過程の中で、特にプロフェッショナル・アイデンティティ形成における過程にどのような影響を与えるのかについて探索を行った。10年以上前に海外で選択実習を経験した東京大学医学部卒業生23名（平均年齢36.4歳：33～42歳）が本研究への参加を行った。研究1と同様に、構成主義の視点に基づき、ナラティブ分析の手法を用いてデータ解析を行った。質的データの採取は、半構造化面接の手法を用いた直接対面式（1対1）によるインタビュー（23名）、および海外実習の際に作成された実習レポート（16名）を用いて行った。データコーディングおよび理論化に際しては、テーマ分析の手法を用い、複数名の研究者によって分析を行った。上記データ解析の結果、医師のプロフェッショナル・アイデンティティ形成と関連するいくつかのテーマを抽出し、それらのテーマを「視点変容」、「キャリアデザイン」、「セルフディベロップメント」、「価値観の多様性」、「他者貢献」、「リーダーシップ」という6項目に分類を行った。本研究結果より、医学生の海外での選択実習における経験は医学生の自己相対化を促し、医師のプロフェッショナル・アイデンティティ形成に寄与すると考えた。さらには、海外での選択実習が将来的な専門性の追求、あるいは海外でのキャリア選択に寄与する可能性も示唆された。本研究結果は、医学生の海外における選択実習の経験が長期的に医師のキャリア形成過程に与える影響を検討する上で有用な情報を提供すると考えた。

考察では、研究1および研究2で得られた知見をふまえ、海外における医療経験が医療

従事者のキャリア形成に与える影響、およびそのプロセスについても考察を行った。上記検討の結果、海外における医療経験を通じて、医療従事者の異文化を理解する姿勢が強化され、医療従事者の内発的モチベーションを促し、生涯学習やリーダーシップの発揮に将来的に関与していると考えられた。また、学生時の海外における医療経験がキャリアに与える影響と専門職を有する医療従事者の海外における医療経験がキャリアに与える影響についても比較検討を行った。さらには、海外での医療経験が医療従事者の自己省察や生涯学習を促すプロセスや他者貢献と関与する背景についても考察を行った。

本研究によって得られた知見は、将来、医療従事者の人材育成手法として、管理者や指導者らが自身の組織において海外での研修導入や医療実践を検討するにあたり、有用な知見になると考えた。また、グローバル化が進む今日において、教育の一環として、教育者らが海外での研修や医療実践をどのように位置づけるのかを検討する上でも有用な情報になると考えた。